

早春の南房総へドライブ視察(7名様限定)

大山寺不動堂、大山千枚田(鴨川市)、石堂寺本堂多宝塔庫裏、石堂寺薬師堂、旧尾形家住宅(南房総市)、那古寺観音堂多宝塔(館山市)ほか

大山不動堂(県指定文化財)



大山千枚田(県指定名勝、棚田百選)



石堂寺薬師堂(重要文化財)



旧尾形家住宅((重要文化財)



集合日時 2月22日(金) AM8:20分集合 8:30発
JR 津田沼南口 千葉工大、モリシア間「まろにえ通り」モリシアよりコンビニ・ローソン前
交通手段 車移動(津田沼発、津田沼戻り)
参加費用 高速道路料金、ガソリン代 車提供者謝礼込み(昼食代金、津田沼までの交通費別) **2,000円/1人**

参加希望者は(社)全日本建築士会千葉県支部事務局まで

お申し込みは2月17日(月)までをお願いします

申し込み先

市川市湊新田1-7

FAX 堀木 047-357-0368

堀木携帯 080-5489-9696

船橋市習志野台 8-22-2-208

伊橋携帯 090-4064-7859

伊橋携帯メール i-4.7+u.2-208@docomo.ne.jp

次回の予定 4月5日(金)

成田市滑川「龍正院仁王門」(重要文化財)

次々回の予定 6月中旬

この見学会による、旅行中の事故、怪我等の責任は
負いかねます。自己責任でお願いします。雨天決行、
荒天中止となります。前日に連絡し確認してください。

☆ 昼食場所が未定です。出発時にコンビニで仕入れていくか、現地で適当に調達するか。

☆ 宇田川氏の車で、館山道を利用し移動します。このため参加人員に制限があります。2月17日までの先着順で参加者を決めます。あしからず。

およその行程

津田沼(8:30)発～館山道・鋸南保田 IC～大山寺不動堂 9:50 着～大山千枚田 10:30 着～石堂寺・旧尾形家住宅 11:15～昼食～那古寺多宝塔・観音堂 13:50～大福寺崖ノ観音 14:30、15:00 発～館山道～津田沼(17:00)



集合場所

大山寺不動堂(県指定) 大山不動堂は、鴨川市高蔵山の中腹にあり、奈良時代に良弁僧正が開山したと伝えられる。境内からは長狭平野一望し太平洋まで見る事ができる。江戸時代後期享和2年(1802)に建てられた不動堂は、正面の龍は初代武志伊八郎信由の作で本尊を安置する厨子と一体で、県の指定文化財とされている。文和2年(1353)造立の石造宝篋印塔と鐘楼(1689)が市の有形文化財になっている。

大山千枚田 大山千枚田は鴨川市の中山間に位置し房総半島のほぼ中心に在り、東京から一番近い棚田として知られる。耕地整理の遅れがこの棚田を現在に伝えることになっている。大山千枚田は日本で唯一雨水だけで耕作を行っている。

石堂寺本堂(重文) 文明十九年(長享元年)の火災の後、二十余年かかって再建されたと記されているが、確かな年代は不詳である。しかし本堂内厨子に永正十年の墨書があり、形式上からもほぼその頃の建立と考えられている。様式は唐様で、桁行四間・梁間三間・一重・寄棟造・妻入、県下木造建物で最大の重要文化財(建造物)。昭和41年茅葺から茅葺型銅版葺に改められている。

石堂寺薬師堂(重文) 天正三年(1575)石堂原に石堂寺境外仏堂として建立され、昭和43年重要文化財となる。昭和46年、保存の万全を期して境内内に移築、移築にあたり後世の改造部分をすべて撤去、創建時の姿に復元した。様式は唐様で桁行三間・梁間三間・一重・寄棟造。茅葺である。

石堂寺多宝塔(重文) 天文十四年(1545)、時の住職宋海を大本願とし、丸朱師谷殿を大旦那として、丸一族が総力をあげ、里見善堯・正木時茂等の協力も得て、遠江・丹後の国の大工が工事に当たった。江戸時代以前の多宝塔は関東に極めて少なく、その意味からも希少価値の建造物である。様式は、上層唐様・下層和様の折衷様式で、四方十六面の彫刻は初代長狭の伊八の作で、塔内には市指定文化財の室町時代制作の千手観音が祀られている。

旧尾形家住宅(重文) 尾形家は中条流の医者尾形宮内を初代とし、その後この地で名主をつとめとこともある家柄の旧家である。この住宅は十八世紀前半に建築された上層農家で、平面は大型農家の一典型を示している。千葉県内民家の中で重要な遺例である。円山町からこの地に移築・保全されている。

那古寺多宝塔(県指定) 那古寺観音堂(県指定) 那古寺は房総半島最先端の館山市の市街から少しはずれた那古山の中腹にある。創立は天正天皇の時代養老元年(717)に行基により開かれ、本尊は行基作とされる千手観音である。坂東三十三札所の「総納札所」である。この山上の遺跡は当時の伽藍であるといわれる。のちに慈覚大師が止住し、正治年間(1199～1201)秀円上人により真言密教の霊場となる。

崖ノ観音 717年行基が東国行脚の折に神人の霊を受け、地元漁民の海上安全と豊漁を祈願して、山の岩肌の自然石に十一観世音菩薩を彫ったといわれている。